

# 山梨県の遺跡からみつかった 金属製品をみてみよう



土・石・木を利用して暮らしていた人々にとって金属の登場は革命的な出来事でした。これらの多くは単なる道具ではなく、儀式に使うもの、または権威の象徴とされました。紹介する資料のほとんどが古墳の中の棺に納められていたものです。ではどんなものがあるのか、使う目的ごとにみてみましょう。

## 儀式の道具 青銅鏡

山梨県では、古墳時代前期から中期の古墳の副葬品として、現存しているものとして19面が確認されています。これらは大和王権からの分配と考えられ、強い繋がりがあった権力者が山梨にいたことがうかがわれます。



三角縁銘帯神獸車馬鏡  
(さんかくぶちめいたいしんじゅうしゃばきょう)  
〈甲斐銚子塚古墳 甲府市〉

直径22.2cm



内行花文鏡  
(ないこうかもんきょう)  
〈甲斐銚子塚古墳 甲府市〉

直径19.8cm



盤龍鏡(ばんりゅうきょう)  
〈亀甲塚古墳 笛吹市〉  
虎(右)と龍(左)が向かい合った文様です。

直径13.8cm



八稜鏡(はちりょうきょう)  
〈百々遺跡 南アルプス市〉

直径8.5cm



奈良・平安時代には日本人好みにつくられた鏡=和鏡が作られるようになります。山梨では8面確認されています。

## 戦いの道具

4世紀末になると朝鮮半島への出兵などがおこり、武力の増大が必要とされました。県内の古墳からは剣・刀・鉄鏃(てつぞく)が特に多く見つかっています。



冑(かぶと)  
〈王塚古墳 中央市〉

高さ20.3cm



短甲(たんこう)  
〈大丸山古墳 甲府市〉

高さ42cm

17枚の長い鉄板を皮ひもでつづりあわせています。日本で最も古い甲(よろい)のひとつです。



鉾(ほこ)  
〈かんかん塚古墳 甲府市〉

長さ39cm



鐔(つば)  
〈二ツ塚1号墳 甲斐市〉

長さ7.5cm

鉄刀(てつとう)  
〈双葉2号墳 甲斐市〉

長さ60cm



鏃(ぞく)は矢の先の部分です。様々な形があります。古墳の副葬品として多く納められ、平安時代には住居跡からよくみつかります。

鏃(ぞく)



銅鏃  
〈上:立石遺跡 最長3.6cm  
下:東山北遺跡 甲府市〉



鉄鏃  
〈平林2号墳 笛吹市〉  
県指定文化財

最長10.5cm

鉄鏃  
〈稲荷塚古墳 甲府市〉  
県指定文化財

最長8cm



鉄鏃  
〈博物館構内古墳 甲府市〉

最長21cm

